

． 決済口座がある金融機関

1. 決済口座がある金融機関 (問6 複数回答)

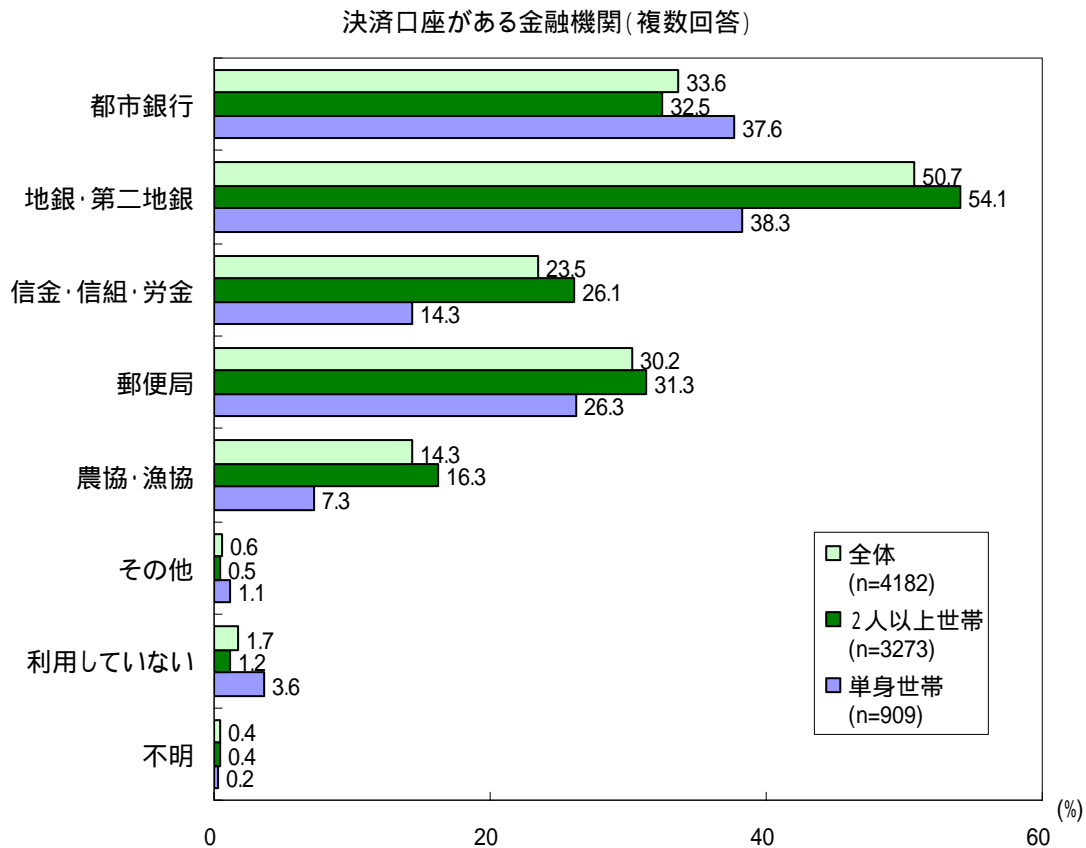
問6 現在、お家で決済口座がある金融機関について、下記の項目ごとにあてはまるものをすべて選んで番号に をつけてください。(はいくつでも)

決済口座とは、公共料金(電気・水道・ガス・電話料金、NHK 受信料をいう)やクレジットカードなどの自動引落口座、給与・年金・恩給などの受取口座をいいます。

<世帯別>

決済口座がある金融機関としては、2人以上世帯では、「地銀・第二地銀」(54.1%)の割合が最も高く、以下、かなり離れて「都市銀行」(32.5%)、「郵便局」(31.3%)の順となっている。

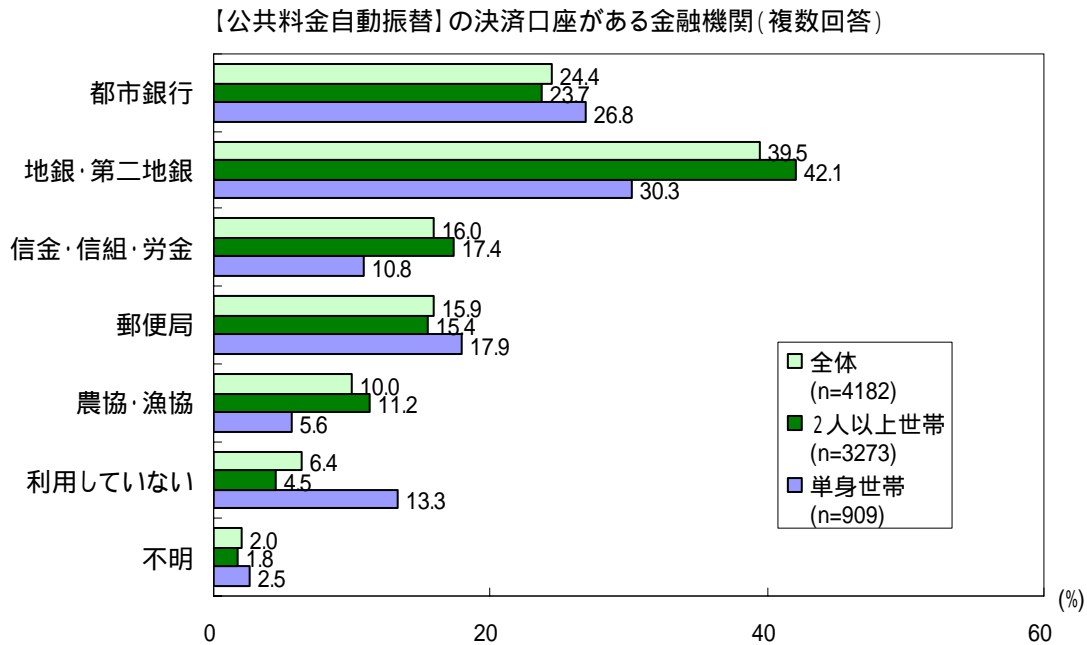
一方、単身世帯では、「地銀・第二地銀」(38.3%)と「都市銀行」(37.6%)がほとんど同じで、「信金・信組・労金」(14.3%)、「農協・漁協」(7.3%)の割合が、2人以上世帯と比較して低くなっている。



(a) 公共料金の自動振替 (問6 - a)

< 世帯別 >

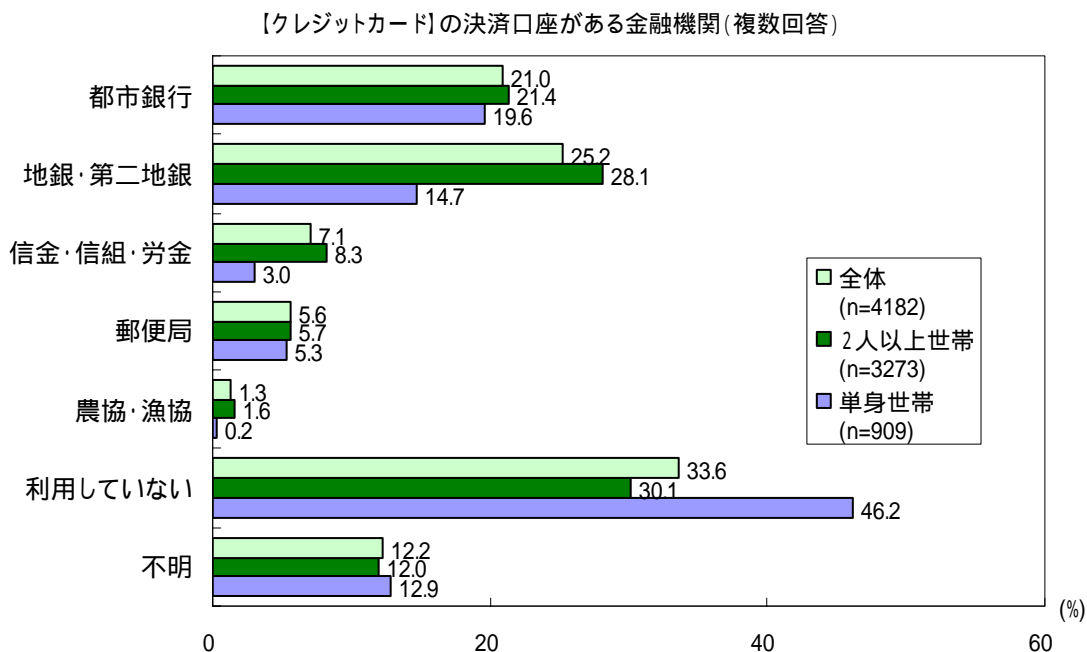
公共料金の自動振替の口座がある金融機関としては、2人以上世帯では、単身世帯と比較して「地銀・第二地銀」(42.1%)、「信金・信組・労金」(17.4%)、「農協・漁協」(11.2%)の割合が高くなっている。



(b) クレジットカードの決済 (問6 - b)

< 世帯別 >

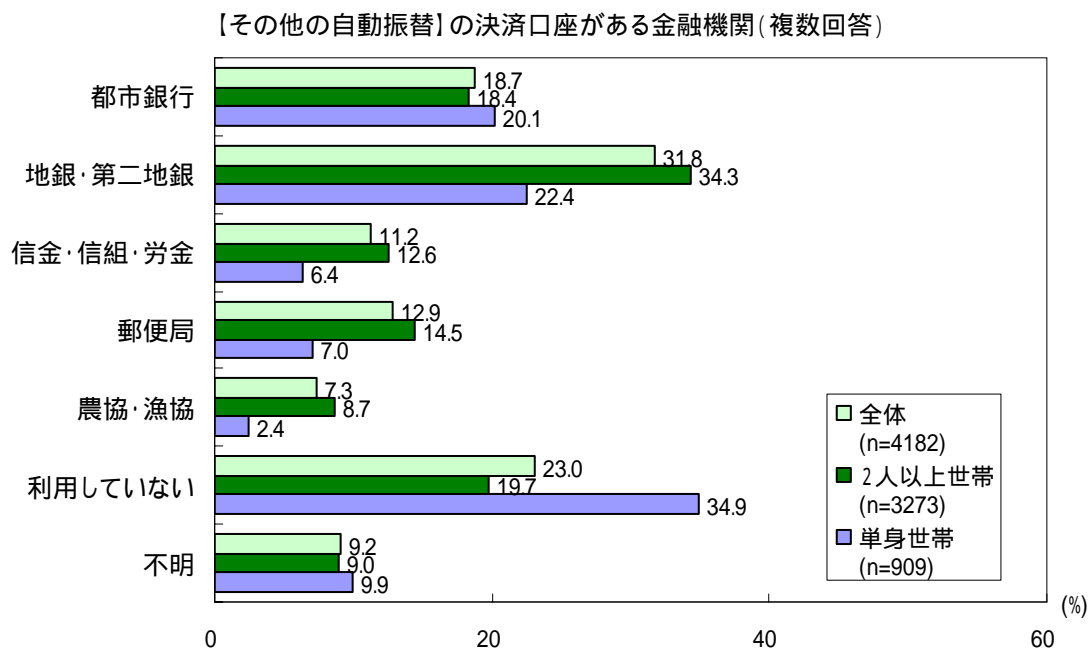
クレジットカードの決済の口座がある金融機関としては、「利用していない」が最も高いが、利用している中では、2人以上世帯では「地銀・第二地銀」(28.1%)が、単身世帯では「都市銀行」(19.6%)が最も高い。



(c) その他の自動振替(保険料、授業料、家賃、税金等) (問6 - c)

<世帯別>

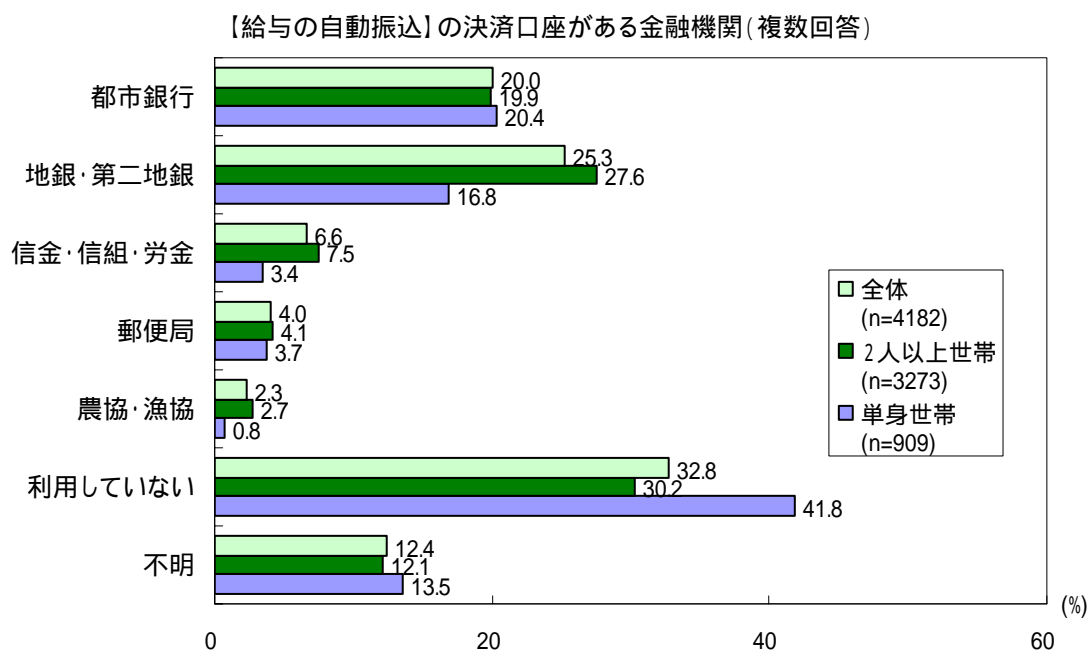
その他の自動振替の口座については、2人以上世帯では「地銀・第二地銀」(34.3%)が最も高く、単身世帯では「利用していない」(34.9%)が最も高い。



(d) 給与の自動振込 (問6 - d)

<世帯別>

給与の自動振込の口座がある金融機関としては、「利用していない」の割合が最も高いが、利用している中では、2人以上世帯では「地銀・第二地銀」(27.6%)が、単身世帯では「都市銀行」(20.4%)が最も高くなっている。

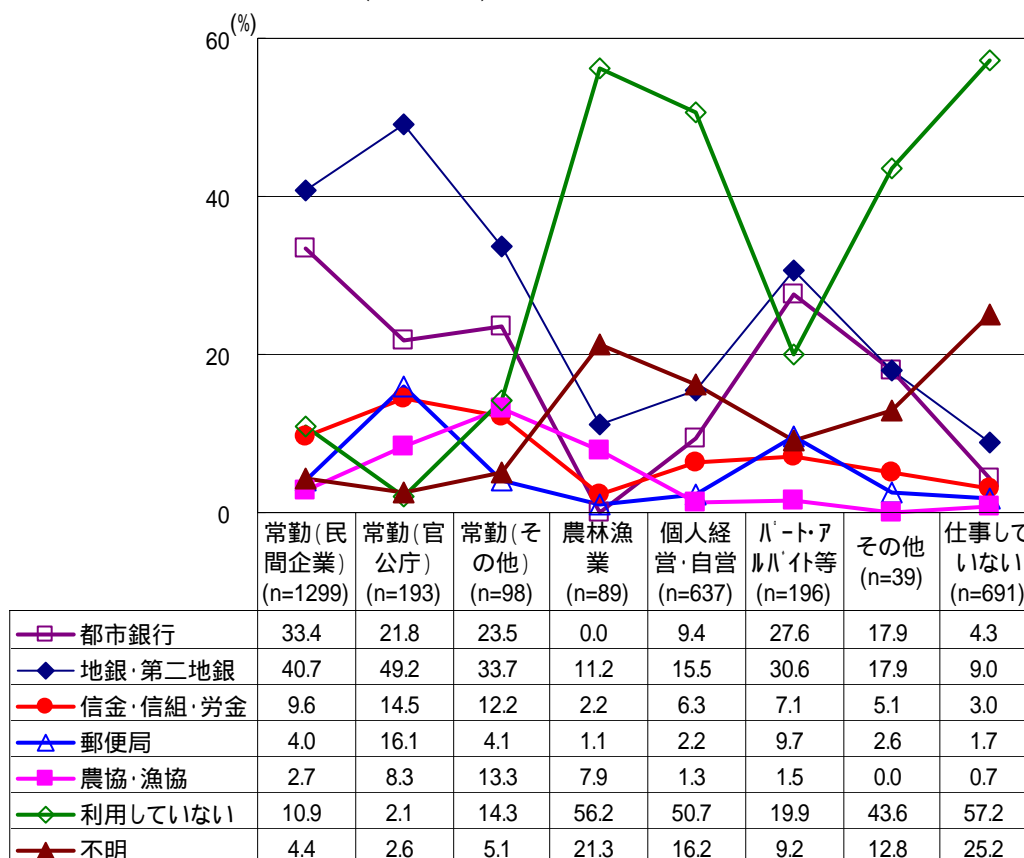


<世帯主職業別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、世帯主の職業別にみると、「地銀・第二地銀」は、「常勤(官公庁)」及び「常勤(民間企業)」で、「都市銀行」は「常勤(民間企業)」で、「郵便局」及び「信金・信組・労金」は「常勤(官公庁)」で、「農協・漁協」は「常勤(その他)」で、比較的利用割合が高くなっている。

「農林漁業」、「個人経営・自営業」及び「仕事をしていない」では、「利用していない」「不明」の割合が高い。

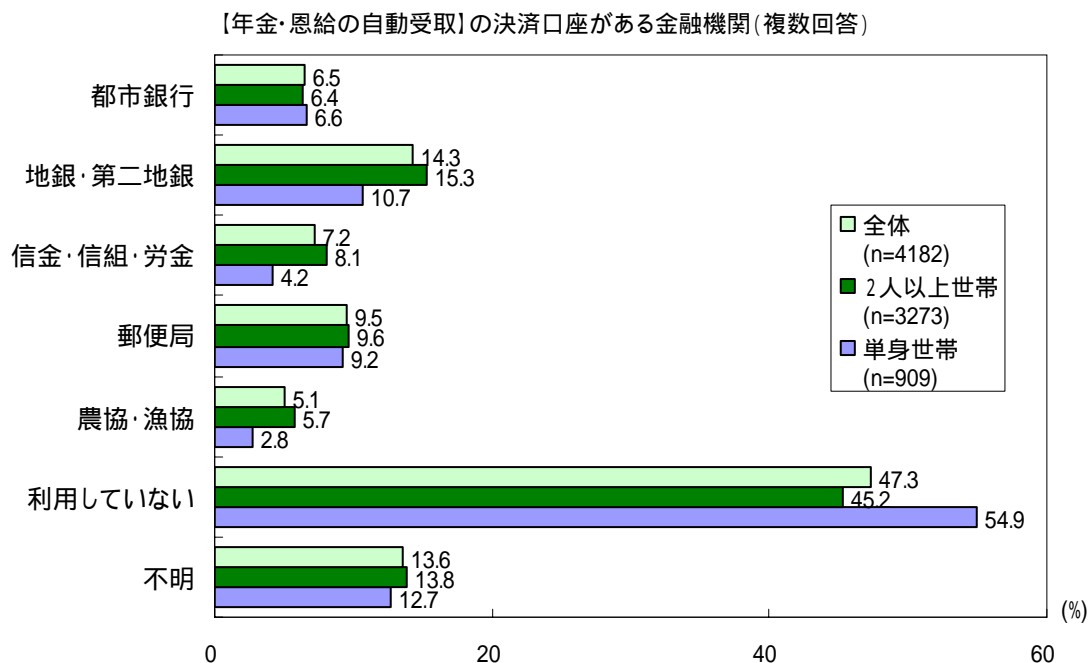
世帯主職業別【給与の自動振込】の決済口座がある金融機関
(複数回答) <2人以上世帯>



(e) 年金・恩給の自動受取 (問6 - e)

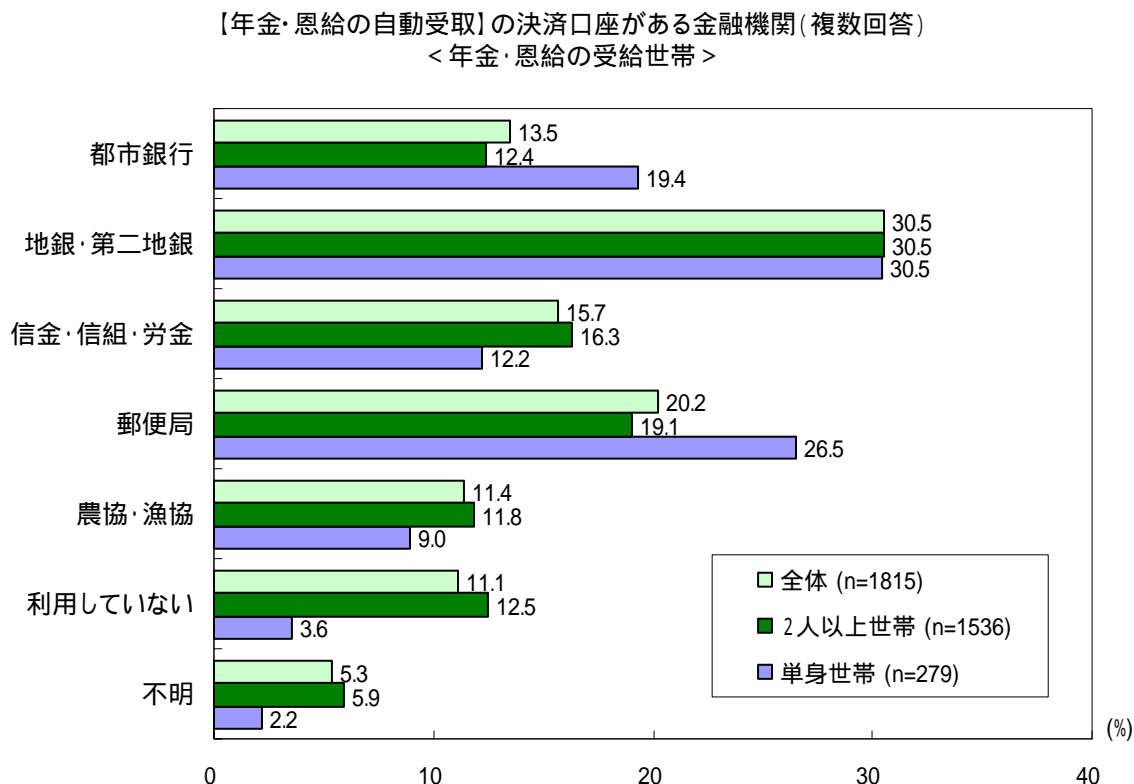
<世帯別> (すべての世帯)

年金・恩給の自動受取の口座がある金融機関としては、「地銀・第二地銀」の割合が最も高い。なお、年金・恩給を受給していない世帯も含めて聞いているため、「利用していない」が約5割を占めている。



<世帯別> (年金・恩給を受給している世帯)

年金・恩給の受給世帯(F10において1人以上と答えた世帯)についてみると「地銀・第二地銀」の割合が最も高い。単身世帯では2人以上世帯と比較して、「郵便局」「都市銀行」の割合が高くなっている。

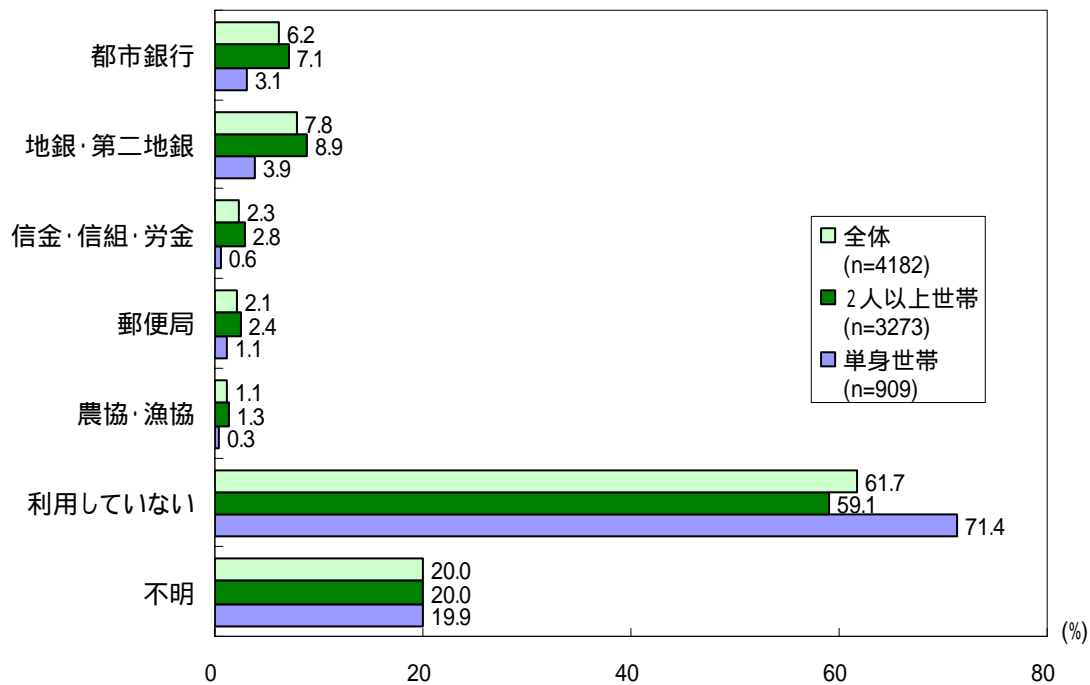


(f) その他の自動受取(公社債等の利子、株式の配当金、税金等) (問6 - f)

<世帯別>

その他の自動受取の口座がある金融機関としては、利用していない世帯が多いが、利用している世帯については、「地銀・第二地銀」の割合が最も高い。

【その他の自動受取】の決済口座がある金融機関(複数回答)



2. 決済口座としての利用件数が最も多い金融機関（問7）

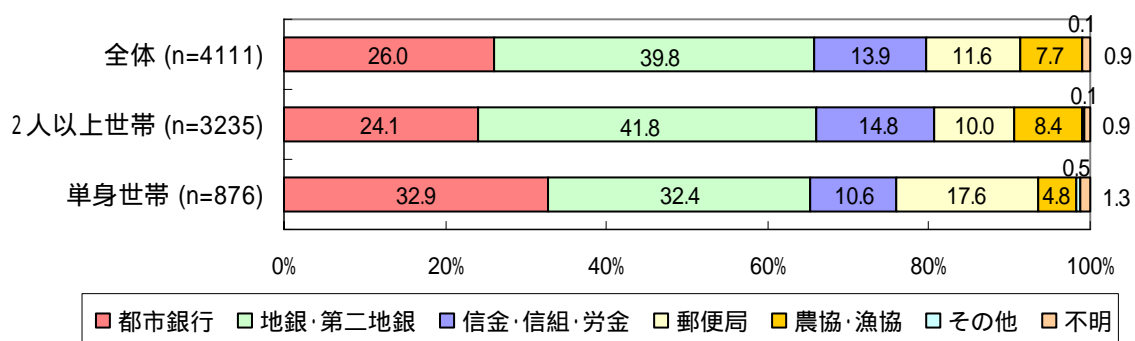
問7 問6で選んだ金融機関のうち決済口座としての利用件数が最も多い金融機関はどれですか。（は1つ）
 なお、例えば、複数の都市銀行を利用している場合は、別々の金融機関としてお考えください。

<世帯別>

決済口座を利用している世帯(n=4,111)について、決済口座としての利用件数が最も多い金融機関を聞いたところ、2人以上世帯では、「地銀・第二地銀」(41.8%)、「都市銀行」(24.1%)、「信金・信組・労金」(14.8%)、「郵便局」(10.0%)、「農協・漁協」(8.4%)の順となっている。

一方、単身世帯では、「都市銀行」(32.9%)、「地銀・第二地銀」(32.4%)、「郵便局」(17.6%)、「信金・信組・労金」(10.6%)、「農協・漁協」(4.8%)の順となっており、2人以上世帯と比較して、「都市銀行」「郵便局」の割合が高い。

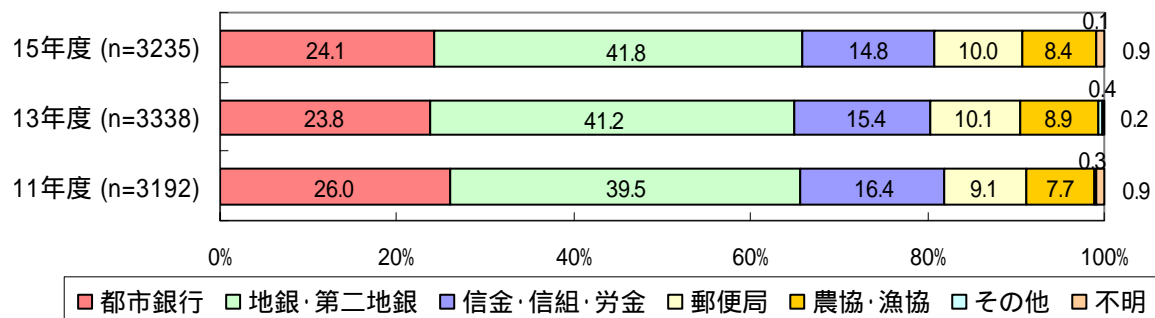
決済口座としての利用件数が最も多い金融機関



<時系列比較>（2人以上世帯）

2人以上世帯について、13年度調査、11年度調査と比較すると、「地銀・第二地銀」の利用が若干増えている。

時系列比較 決済口座としての利用件数が最も多い金融機関 <2人以上世帯>

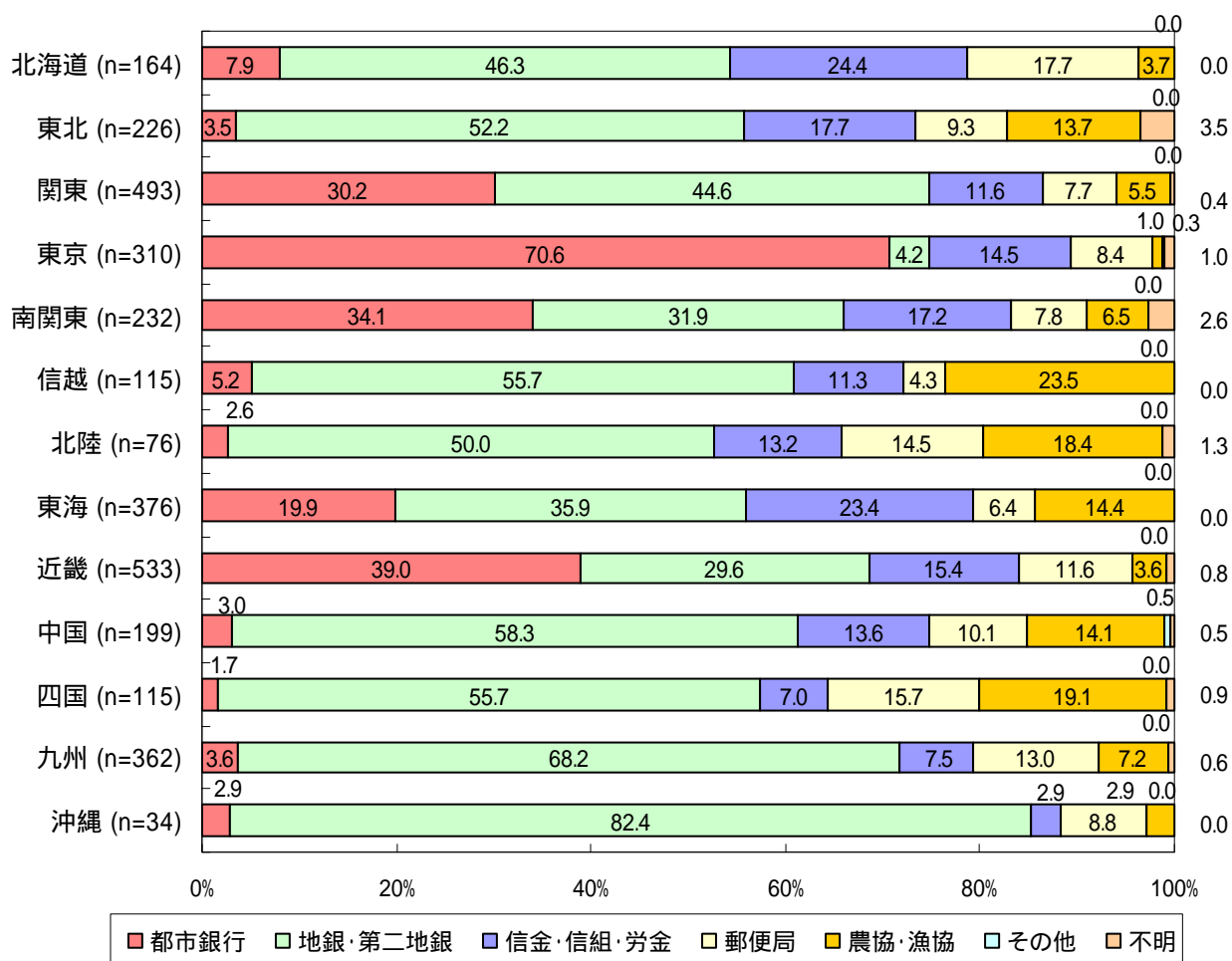


<地域ブロック別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、地域ブロック別にみると、「東京」では「都市銀行」(70.6%)の割合が、「沖縄」では、「地銀・第二地銀」(82.4%)の割合が圧倒的に高い。

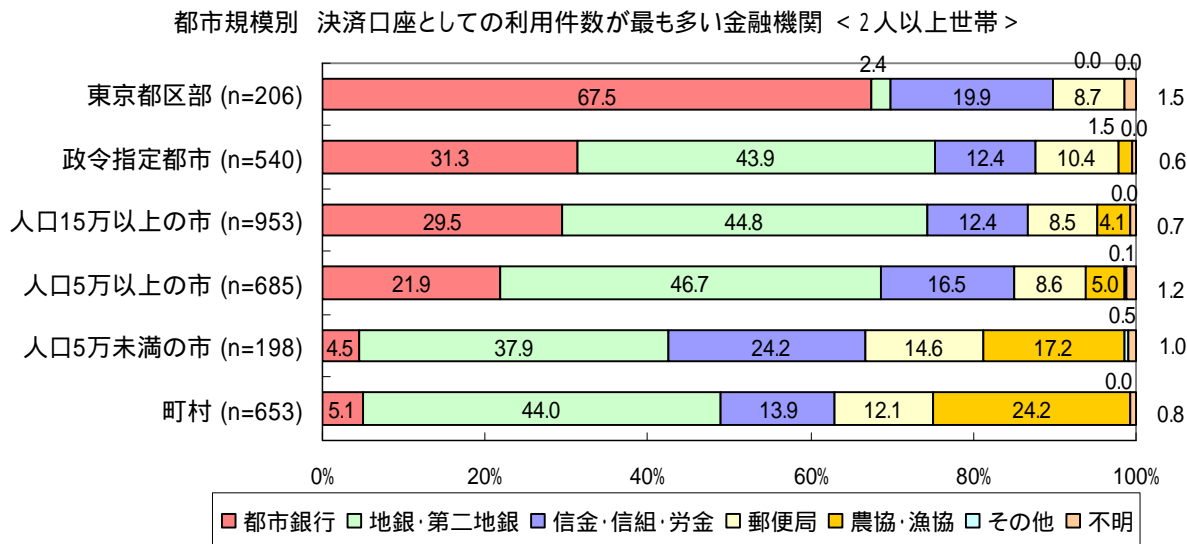
また、「信金・信組・労金」については、「北海道」(24.4%)、「東海」(23.4%)で、「郵便局」については、「北海道」(17.7%)、「四国」(15.7%)、「北陸」(14.5%)で、「農協・漁協」については「信越」(23.5%)、「四国」(19.1%)、「北陸」(18.4%)で相対的に高くなっている。

地域ブロック別 決済口座としての利用件数が最も多い金融機関 <2人以上世帯>



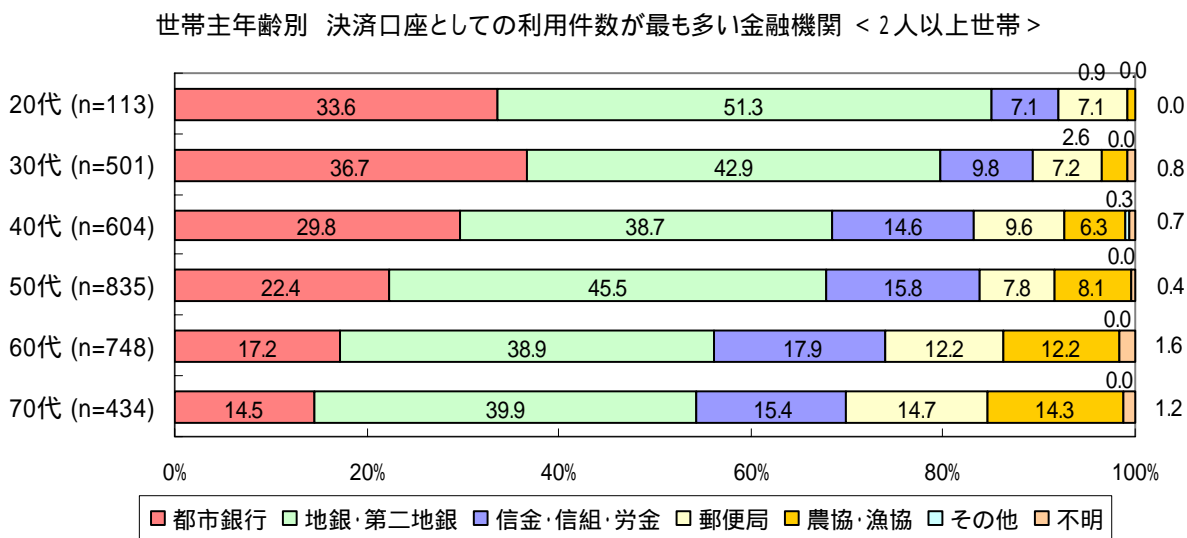
< 都市規模別 > (2人以上世帯)

2人以上世帯について、都市規模別にみると、「東京都区部」では、「都市銀行」(67.5%)の利用率が圧倒的に高く、「郵便局」(19.9%)が続いている。一方、「人口5万未満の市」及び「町村」においては、「農協・漁協」の利用率が相対的に高くなっている。



< 世帯主年齢別 > (2人以上世帯)

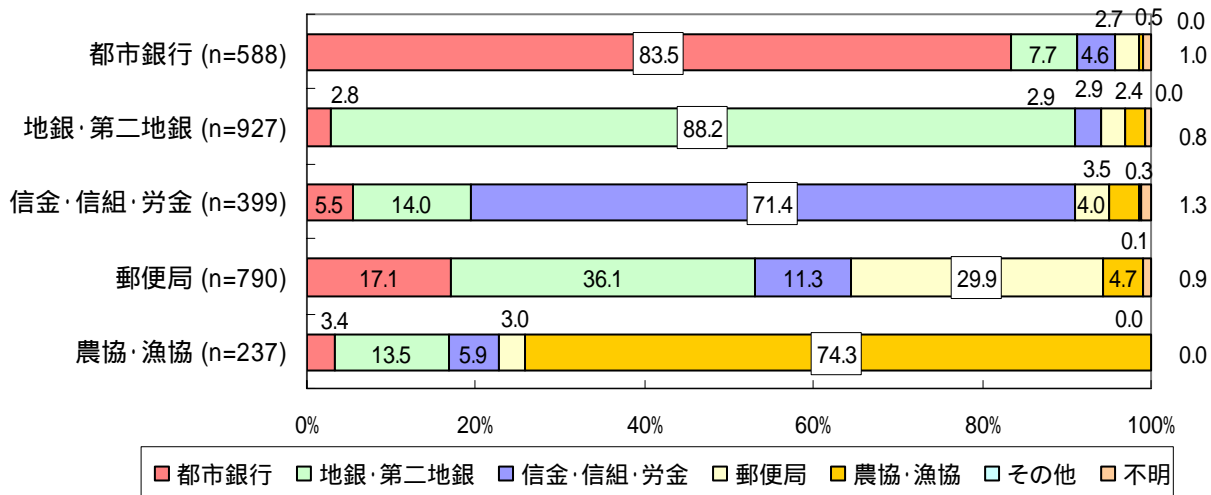
2人以上世帯について、世帯主の年齢別にみると、年代が若いほど「都市銀行」の利用率が高く、「郵便局」「農協・漁協」の利用率が低くなる傾向がみられる。



<貯蓄額が最も多い金融機関別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、貯蓄額が最も多い金融機関(問4)別にみると、貯蓄額が最も多い金融機関と決済口座としての利用件数が最も多い金融機関について、どちらも「都市銀行」、「地銀・第二地銀」、「信金・信組・労金」または「農協・漁協」を選んだ世帯は、7 - 9割を占めているが、どちらも「郵便局」を選んだ世帯は3割以下(29.9%)にとどまっている。

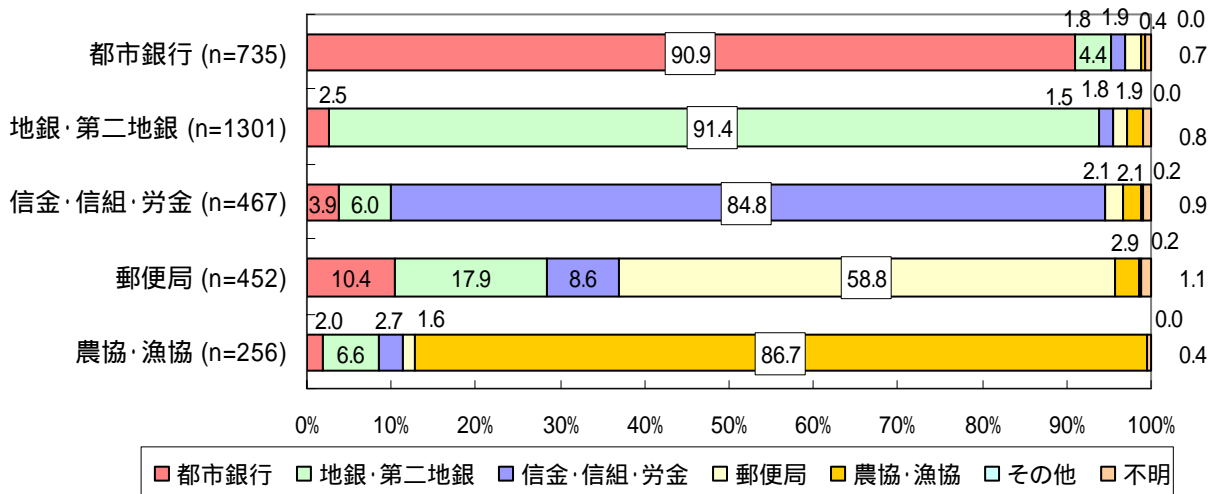
貯蓄額が最も多い金融機関別 決済口座としての利用件数が最も多い金融機関
<2人以上世帯>



<利用回数が最も多い金融機関別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、利用回数が最も多い金融機関(問5)別にみると利用回数が最も多い金融機関と決済口座としての利用件数が最も多い金融機関について、どちらも「都市銀行」、「地銀・第二地銀」、「信金・信組・労金」または「農協・漁協」を選んだ世帯は、9割前後を占めているが、どちらも「郵便局」を選んだ世帯は6割以下(58.8%)にとどまっている。

利用回数が最も多い金融機関別 決済口座としての利用件数が最も多い金融機関
<2人以上世帯>



3. 決済口座としての利用件数が最も多い金融機関を選んだ理由（問7付問1 複数回答）

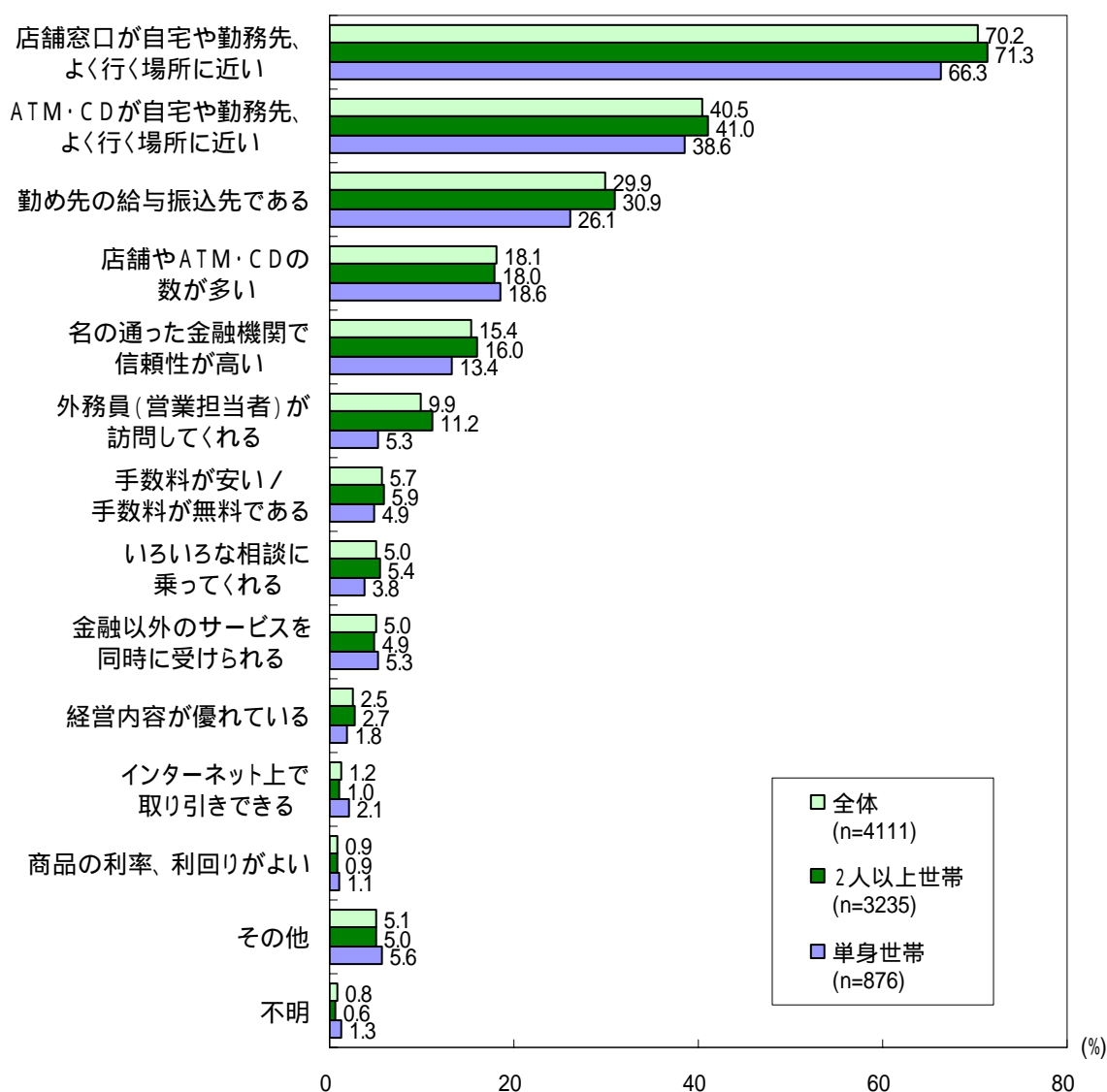
付問1 その金融機関を決済口座として選んだ理由について、あてはまるものをすべて選んでください。（はいくつでも）

<世帯別>

決済口座を利用している世帯（n=4,111）が、決済口座としての利用件数が最も多い金融機関を選んだ理由としては、「店舗窓口が自宅や勤務先、よく行く場所に近い」（2人以上世帯 71.3%、単身世帯 66.3%）の割合が際立って高く、以下、かなり離れて「ATM・CDが自宅や勤務先、よく行く場所に近い」、「勤め先の給与振込先である」の順となっている。

単身世帯では、2人以上世帯と比較して、「外務員が訪問してくれる」の割合が低くなっている。

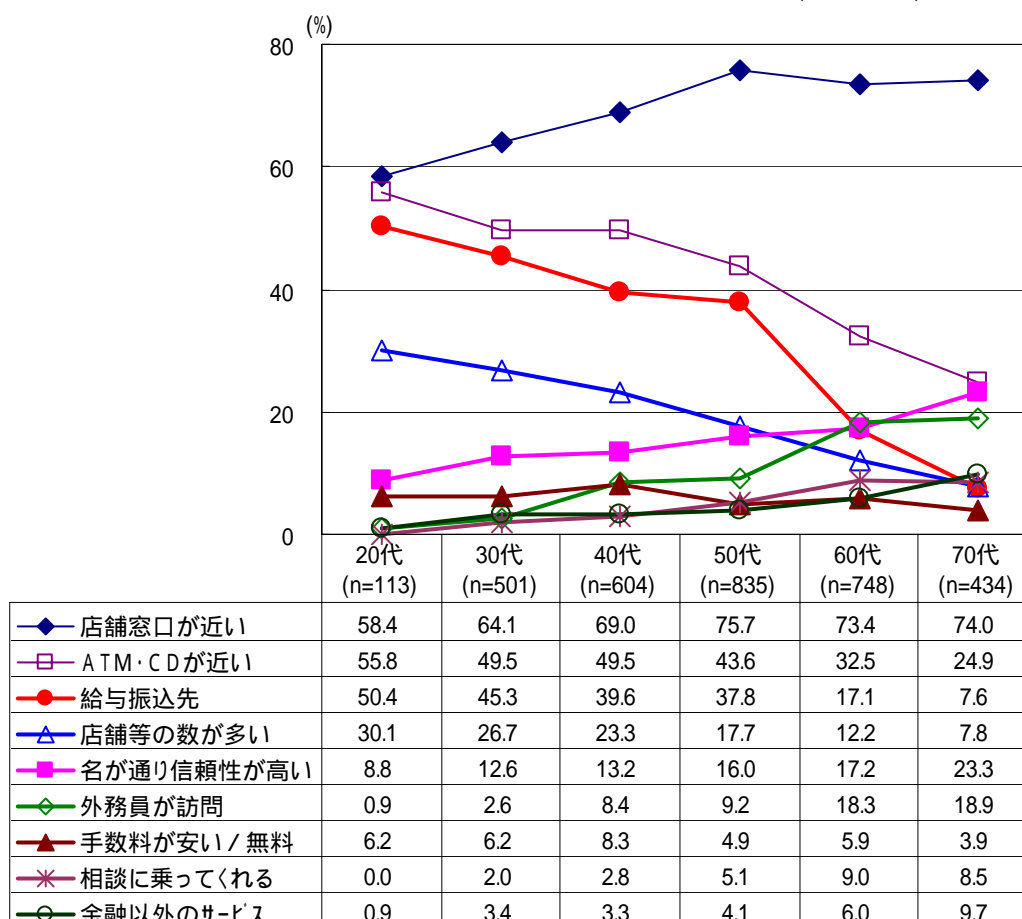
決済口座としての利用件数が最も多い金融機関を選んだ理由（複数回答）



<世帯主年齢別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、回答率の高かった上位9つの理由について、世帯主の年齢別にみると、「ATM・CDが自宅や勤務先、よく行く場所に近い」「勤め先の給与振込先である」「店舗やATM・CDの数が多い」は若年層ほど回答率が高く、「店舗窓口が自宅や勤務先、よく行く場所に近い」「名の通った金融機関で信頼性が高い」「外務員が訪問してくれる」「金融以外のサービスを同時に受けられる」「いろいろな相談に乗ってくれる」は高齢であるほど回答率が高くなっている。

世帯主年齢別 <2人以上世帯>
決済口座としての利用件数が最も多い金融機関を選んだ理由(複数回答)



< 決済口座としての利用件数が最も多い金融機関別 > (2人以上世帯)

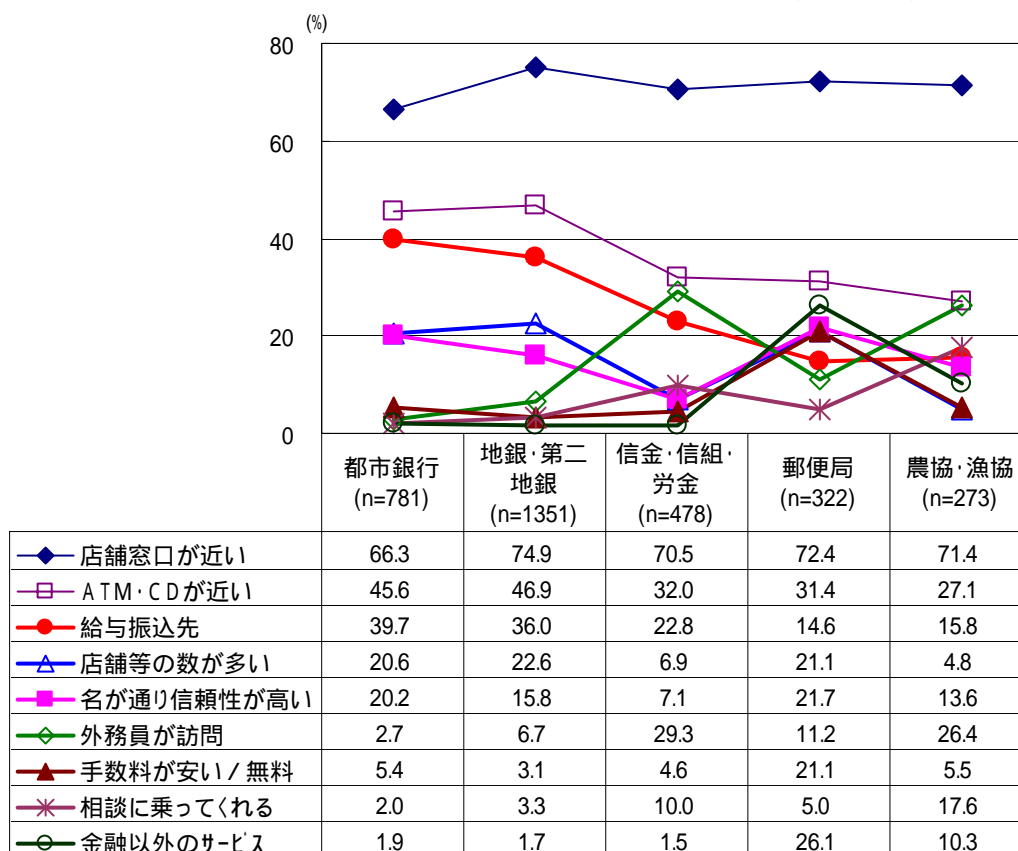
2人以上世帯について、決済口座としての利用件数が最も多い金融機関別にその金融機関を選んだ理由をみると、いずれも「店舗窓口が自宅や勤務先、よく行く場所に近い」が際立って高い。

その他の理由については、「都市銀行」「地銀・第二地銀」では「ATM・CDが自宅や勤務先、よく行く場所に近い」「勤め先の給与振込先である」の割合が高い。

「信金・信組・労金」及び「農協・漁協」では、「外務員が訪問してくれる」「いろいろな相談に乗ってくれる」の割合が高い。

「郵便局」では、「勤め先の給与振込先である」が低く、「手数料が安い」「金融以外のサービスを同時に受けられる」が高くなっている。

決済口座としての利用件数が最も多い金融機関別 < 2人以上世帯 >
 決済口座としての利用件数が最も多い金融機関を選んだ理由(複数回答)

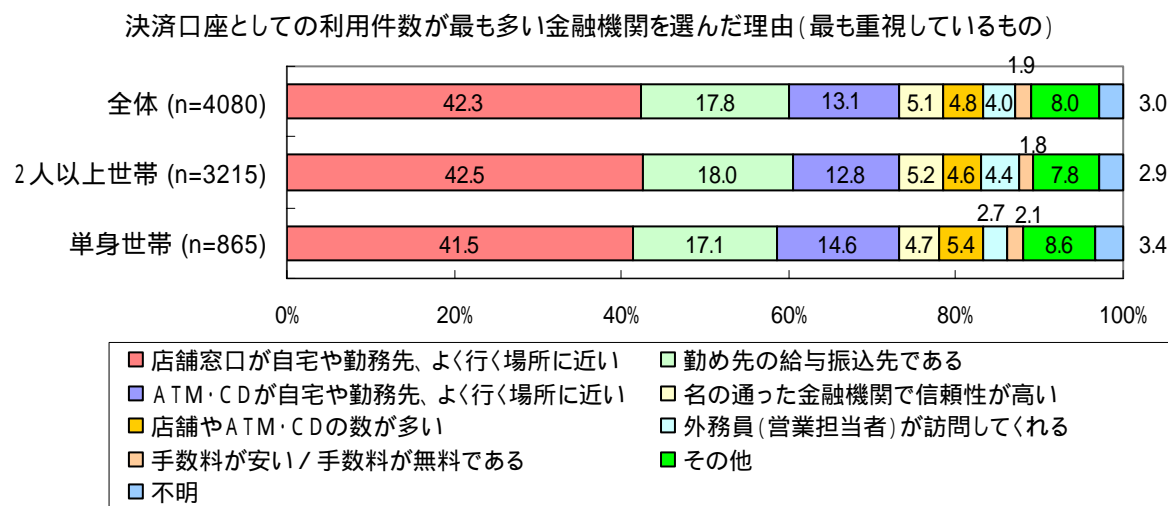


4. 最も重視している理由(決済口座) (問7付問1 - 1)

付問1 - 1 また、そのうち最も重視している理由について、に番号を記入してください。

<世帯別>

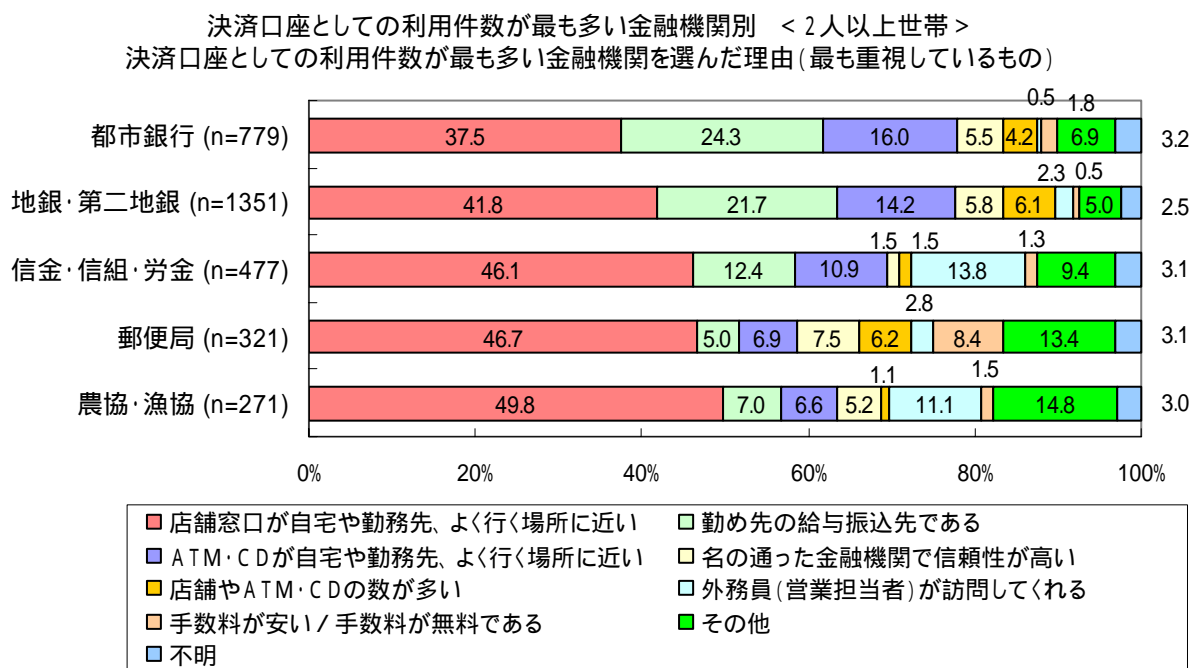
「決済口座としての利用件数が最も多い金融機関を選んだ理由」に回答した世帯(n=4,080)が、最も重視したものとしては、「店舗窓口が自宅や勤務先、よく行く場所に近い」(2人以上世帯42.5%、単身世帯41.5%)が際立って高く、以下、かなり離れて「勤め先の給与振込先である」、「ATM・CDが自宅や勤務先、よく行く場所に近い」が続いている。



<決済口座としての利用件数が最も多い金融機関別> (2人以上世帯)

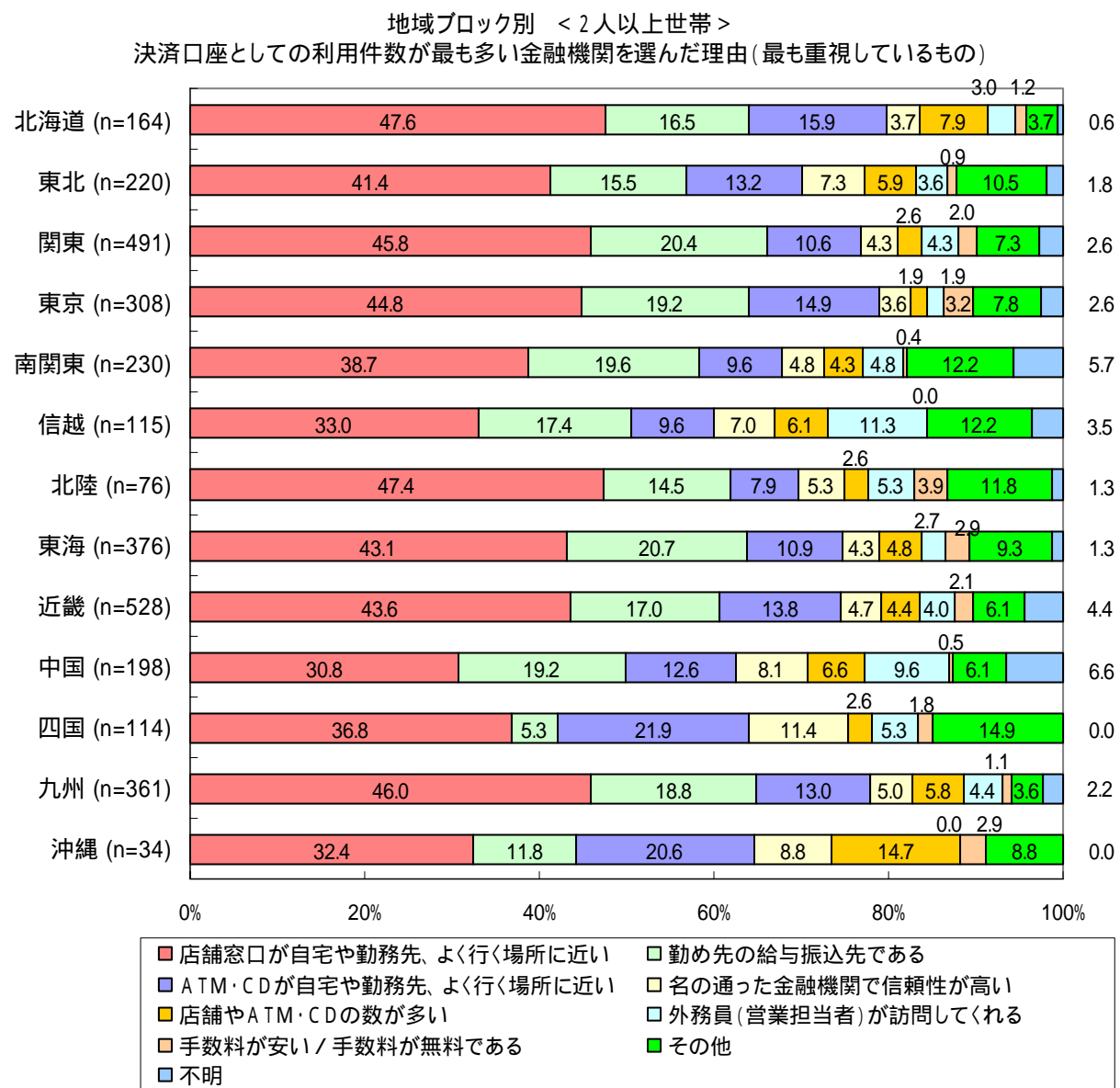
2人以上世帯について、決済口座としての利用件数が最も多い金融機関別にみると、「都市銀行」及び「地銀・第二地銀」の利用が多い世帯では、その金融機関の選択理由として「勤め先の給与振込先である」及び「ATM・CDが近い」を最も重視している割合が相対的に高い。

また、「信金・信組・労金」及び「農協・漁協」では「外務員が訪問してくれる」の割合が、「郵便局」では「手数料が安い/無料である」の割合が、他と比較して非常に高くなっている。



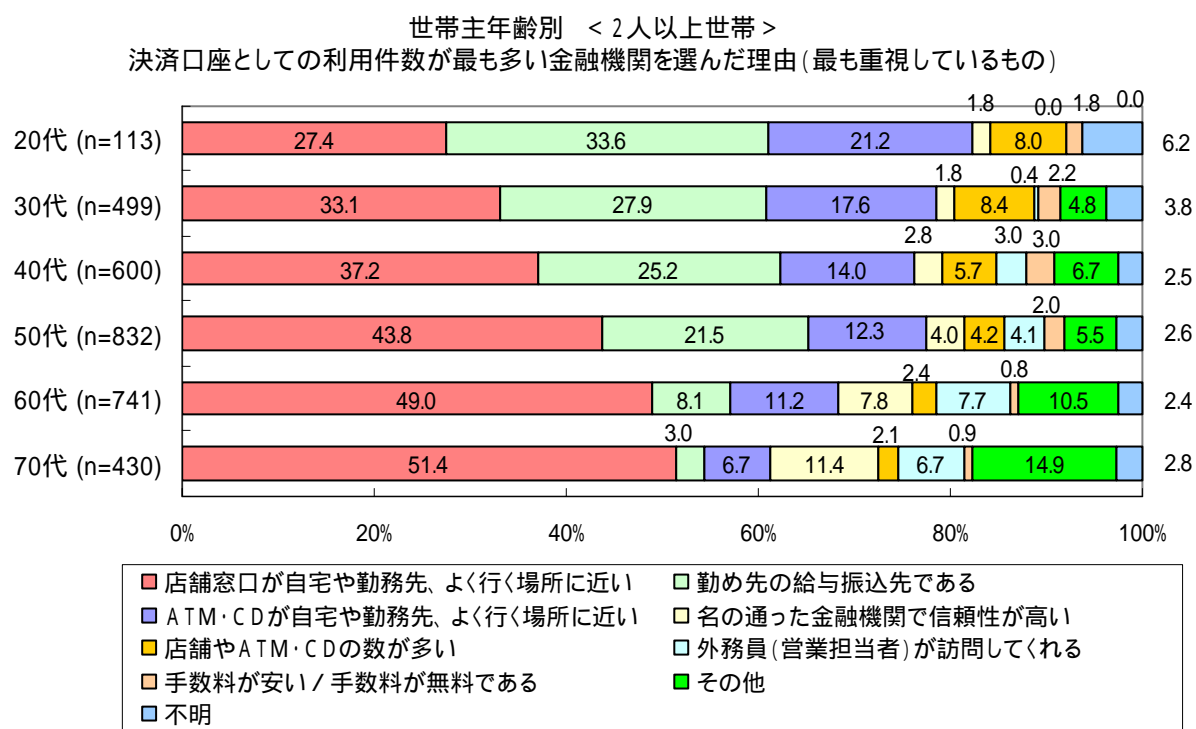
<地域ブロック別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、地域ブロック別にみると、「信越」では「外務員が訪問してくれる」、「四国」では「ATM・CDが近い」「名の通った金融機関で信頼性が高い」、「沖縄」では「ATM・CDが近い」及び「店舗やATM・CDの数が多い」の割合が相対的に高い。



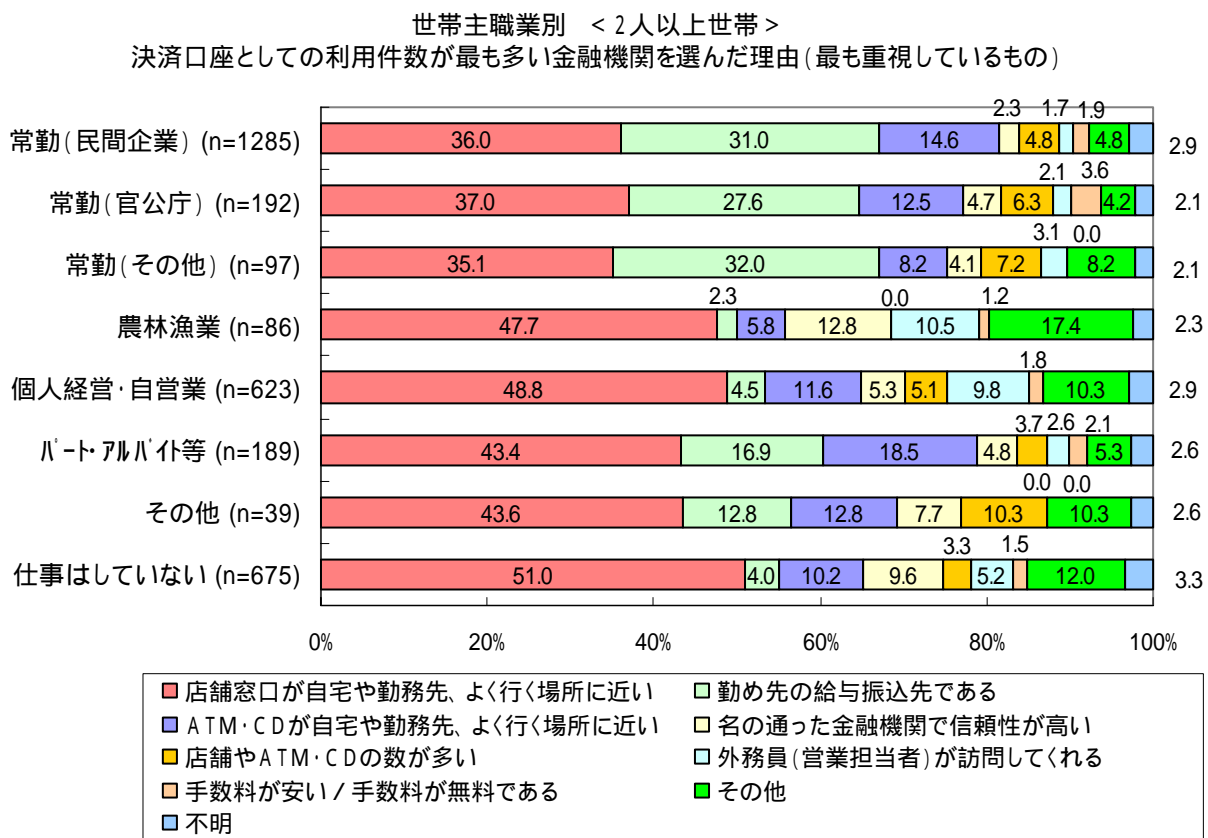
<世帯主年齢別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、世帯主の年齢別にみると、若い世代ほど「勤め先の給与振込先である」「ATM・CDが自宅や勤務先、よく行く場所に近い」「店舗やATM・CDの数が多い」の割合が高い傾向にある。一方、高齢の世代ほど「店舗窓口が自宅や勤務先、よく行く場所に近い」「名の通った金融機関で信頼性が高い」「外務員が訪問してくれる」の割合が高い傾向にある。



<世帯主職業別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、世帯主の職業別にみると、「常勤」の世帯では、「勤め先の給与振込先である」の割合が高い。また、「農林漁業」では、「名の通った金融機関で信頼性が高い」(12.8%)、「外務員が訪問してくれる」(10.5%)の割合が他と比較して高くなっている一方、「店舗やATM・CDの数が多い」を選んだ世帯はなかった。



5. 貯蓄額 / 利用回数が最も多い金融機関との異同 (問7付問2 複数回答)

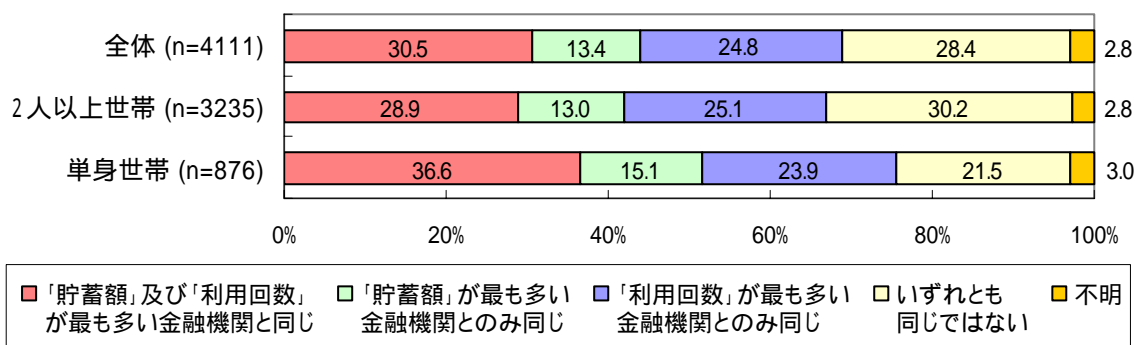
付問2 その金融機関は、問4で選んだ「貯蓄額(投資額)が最も多い」金融機関又は問5で選んだ「利用回数が最も多い」金融機関と同じですか。(はいいくつでも)
 なお、例えば、同じ都市銀行であっても別の金融機関である場合は、同じではないものとしてお考えください。

<世帯別>

決済口座を利用している世帯(n=4,111)について、決済口座としての利用件数が最も多い金融機関と、貯蓄額または利用回数が最も多い金融機関が同じかどうかについてきいたところ、「利用回数が最も多い金融機関と同じ」割合は2人以上世帯で54.0%、単身世帯で60.5%、「貯蓄額(投資額)が最も多い金融機関と同じ」割合は2人以上世帯で41.9%、単身世帯で51.7%となっている。

単身世帯では、「最も貯蓄額が多い」「最も利用回数が多い」「決済口座としての利用件数が最も多い」金融機関がすべて一致する割合(36.6%)が2人以上世帯に比べて高くなっている。

最も貯蓄額 / 利用回数が多い金融機関との異同

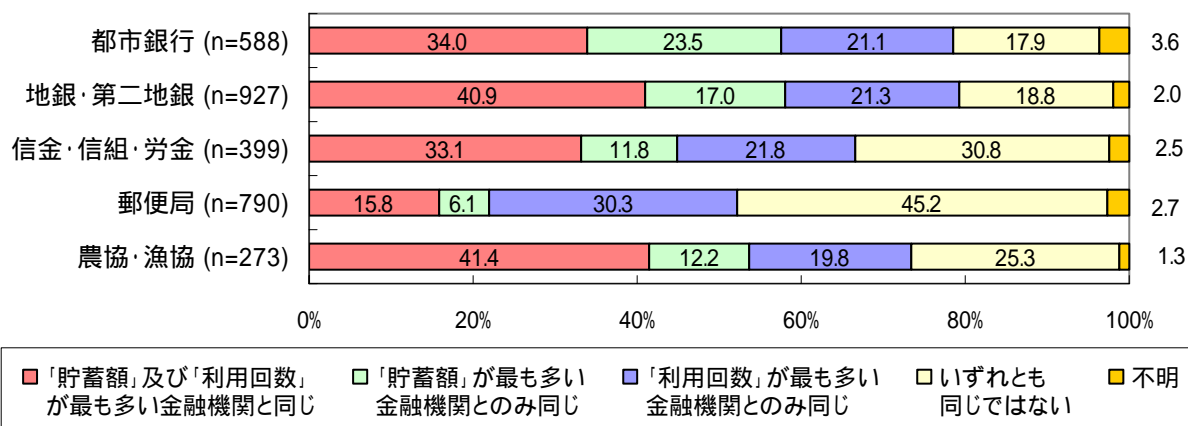


<貯蓄額が最も多い金融機関別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、貯蓄額が最も多い金融機関(問4)別にみると、「貯蓄額」が最も多い金融機関と同じ」と答えた割合は、「都市銀行」(57.5%)、「地銀・第二地銀」(57.9%)、「信金・信組・労金」(44.9%)、「農協・漁協」(53.6%)では、4 - 5割あったが、「郵便局」については21.9%にとどまっている。

なお、「2. 決済口座としての利用件数が最も多い金融機関」において、<貯蓄額が最も多い金融機関別>に分析を行った際には、「郵便局」については「貯蓄額が最も多い金融機関と同じ」であった割合が29.9%あったことから、問4及び問7で同じ金融機関を選択しているにもかかわらず、本問で「同じではない」を選択しているケースが1割弱あるものと推測される。

貯蓄額が最も多い金融機関別
 最も貯蓄額 / 利用回数が多い金融機関との異同 <2人以上世帯>



6. 決済口座としての利用件数が最も多い金融機関で行っている取引（問7付問3 複数回答）

付問3 問7で選んだ「決済口座としての利用件数が最も多い」金融機関で行っている取引をすべて選んでください。（はいいくつでも）

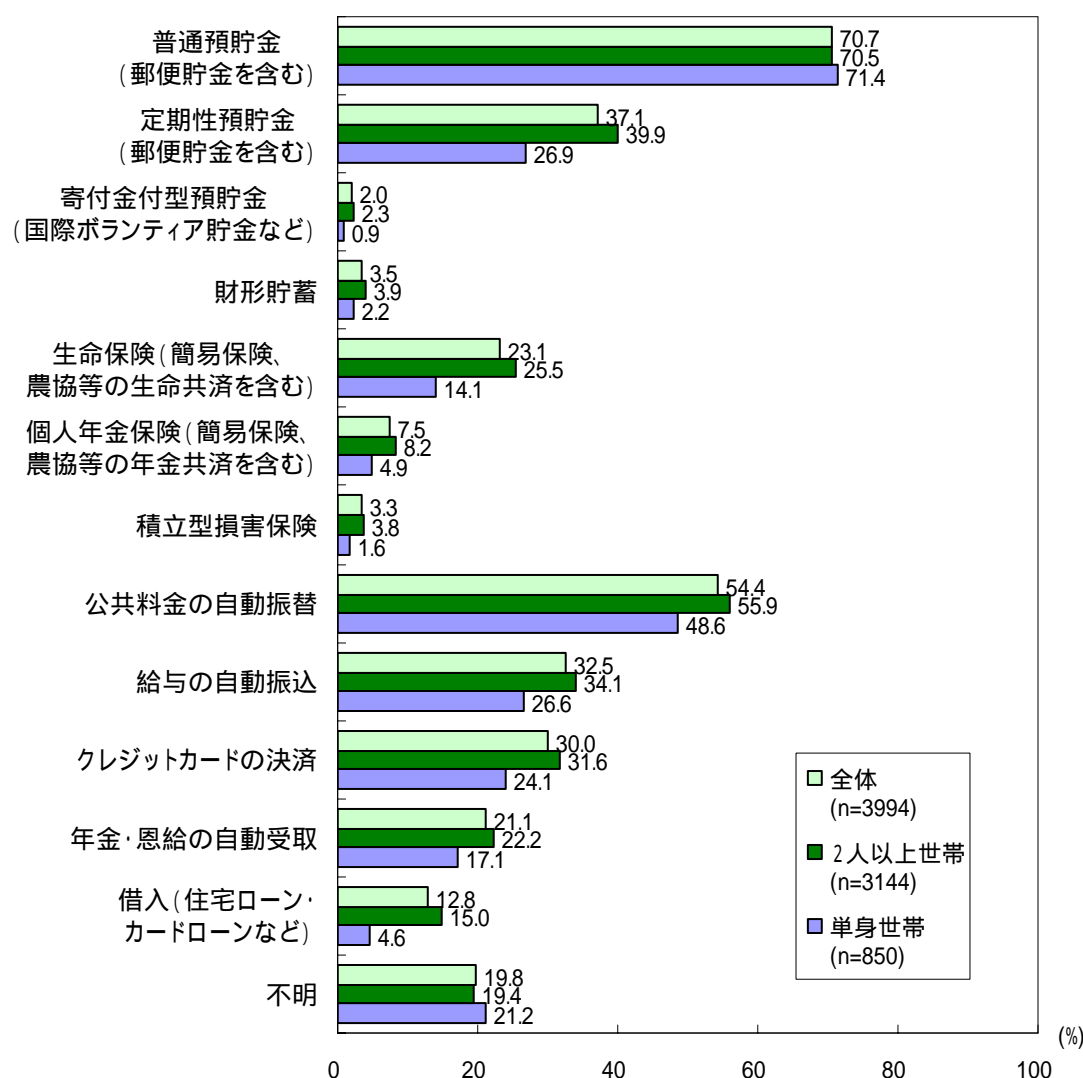
<世帯別>

決済口座を利用している世帯（不明等除く n=3,994）が、決済口座としての利用件数が最も多い金融機関で行っている取引としては、「普通預貯金（郵便貯金を含む）」の割合が最も高い。また、口座引落・受取については、「公共料金の自動振替」（2人以上世帯 55.9%、単身世帯 48.6%）が最も高くなっている。

なお、問7付問2で、「貯蓄額が最も多い金融機関と同じ」または「利用回数が最も多い金融機関と同じ」を選択した世帯については、問4付問3または問5付問3の結果を用いている。

また、回答率が2%未満のものについては、グラフには掲載していない。

最も決済口座としての利用件数が多い金融機関で行っている取引（複数回答）

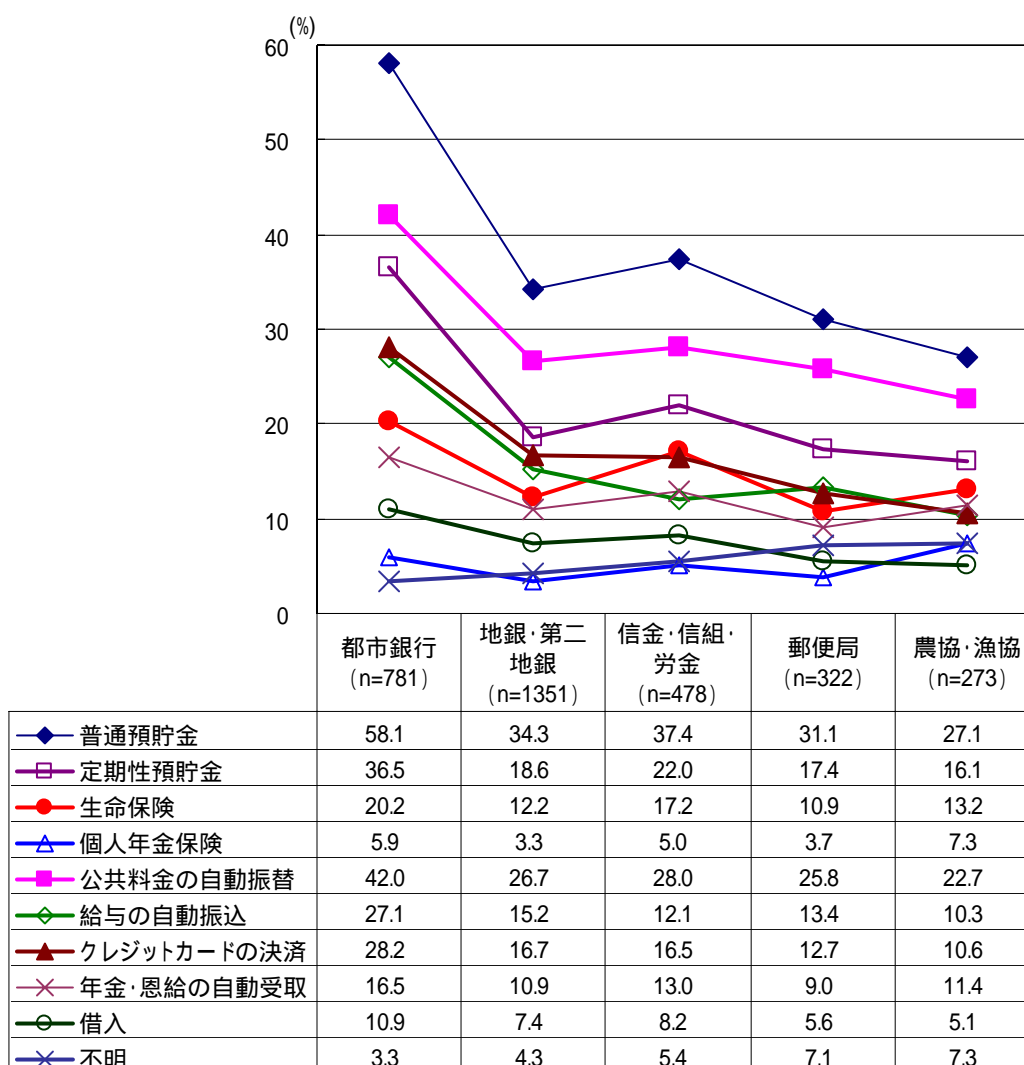


< 決済口座としての利用件数が最も多い金融機関別 > (2人以上世帯)

2人以上世帯について、決済口座としての利用件数が最も多い金融機関(問7)別にその金融機関で行っている取引をみると、「都市銀行」にある決済口座の利用件数が最も多い世帯では、「普通預貯金」(58.1%)、「定期性預貯金」(36.5%)、「公共料金の自動振替」(42.0%)、「給与の自動振込」(27.1%)など、全般に利用率が高い。

なお、問7付問2で、「貯蓄額が最も多い金融機関と同じ」または「利用回数が最も多い金融機関と同じ」を選択した世帯については、問4付問3または問5付問3の結果を用いている。

決済口座としての利用件数が最も多い金融機関別 < 2人以上世帯 >
 決済口座としての利用件数が最も多い金融機関で行っている取引(複数回答)



< 決済口座としての利用件数が最も多い金融機関別 > (2人以上世帯、決済口座としての利用件数が最も多い金融機関が、貯蓄額が最も多い金融機関及び利用回数が最も多い金融機関と異なる世帯)

次に、2人以上世帯について、決済口座としての利用件数が最も多い金融機関が、貯蓄額が最も多い金融機関及び利用回数が最も多い金融機関と異なる世帯についてみると、「都市銀行」にある決済口座の利用件数が最も多い世帯では、「クレジットカードの決済」(48.1%)の利用率が高くなっている。

「地銀・第二地銀」にある決済口座の利用件数が最も多い世帯では、「普通預貯金」(67.1%)の利用率が高い。

「郵便局」にある決済口座の利用件数が最も多い世帯では、「公共料金の自動振替」(40.2%)、「給与の自動振込」(9.2%)などは低くなっている。

「農協・漁協」にある決済口座の利用件数が最も多い世帯では、「生命保険」(42.2%)、「個人年金保険」(16.7%)の利用率が高い。

決済口座としての利用件数が最も多い金融機関別
 決済口座としての利用件数が最も多い金融機関で行っている取引(複数回答)
 < 2人以上世帯 > 問7 - 2で同じでないに答えた世帯のみ

